令和４年度　小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表

法人名	特定非営利活動法人 一期一会	代表者	川上道子
事業所名	風の丘	管理者	山下貴子

法人・ 事業所 の特徴	一期一会は、この愛甲原で「住み慣れた地域で最後まで暮らしたい」を応援するため、地域福祉を展開しています。小規模多機能型居宅介護を併設した有料老人ホーム、・配食サービス・生活支援サービス等を提供しつつ、居宅介護支援、コミュニティスペースCoCo てらすを運営し、地域の方々の相談機能を持つ事業所を運営しています。地域密着サービスのめざす、利用者の地域生活の継続支援と、事業所と地域との関係強化に取り組んでいます。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	１人	１人	３人	０人	１人	１人	人	２人	人	９人

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果(R4 年度)	意見	今回の改善計画
Ａ．事業所自己評価の確認	・初心に帰り、法人の成り立ち風の丘に求められているものについて、学び直す機会を持ち、風の丘職員として自分たちの業務に自信が持てる様スキルアップを図る。 ・感染予防策を取りながら、研修を生かした実践が出来る様、職員同士の意見交換できる場を増やしていく。	・法人の成り立ちなどを学び直す研修はできなかったが、WEB 研修については計画的に実施し、スキルアップを図った。 ・今年度も、感染予防を重視したことと、法人が使用していた事業所を１カ所閉鎖したため、会議場所が減ったこともあり、職員同士が意見交換する場は持てなかった。	・コロナ禍のこともあり、スタッフが集まることも大変でしょうが、評価に取り組まれていると思います。 ・「あまりできていない」と回答した人にどのようなフォローをしていくかが大切だと思います。	・勤務形態にかかわらず、自分たちの介護に自信が持てる様、外部研修や内部研修も積極的に取り組みスキルアップを図る。 ・感染予防策をとりながら、情報の共有と意見交換ができるよう対面での会議を増やしていく。
Ｂ．事業所のしつらえ・環境	外部からの施設への来所制限があっても、ホームページに動画を取り入れて、施設内の様子をご家	・広報担当が風の丘の日常やイベントの様子を動画で撮ったものを、数ヶ月に１度ホームページに	・今後とも新型ｺﾛﾅ･ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ 感染症等が蔓延することも考えられ、利用者と家族との交流を最大限	・面会方法については、様々な感染症の状況に配慮し、感染症予防対策を取りながら、柔軟に実施し

	族や地域の皆様に知って頂けるよう「風の丘・見えるか計画」に取り組む。	アップし、施設内の様子をご家族や地域の皆様に知って頂けるよう努めた。	保障するため、面会室等環境の改善を望みます。 ・コロナ禍の中、外部の方に事業所を知っていただくにはホームページの活用はとても重要だと思います。	ていきます。 ・今後もホームページに工夫を加えながら地域やご家族に施設内の様子をつたえていきます。
C．事業所と地域のかかわり	・今後はホームページと「一期一会ニュース」、「風の丘通信」の連動や、CoCo てらすへの掲示など法人の持つ広報機能の充実を図り、発信のみでなく受信についてのしくみも検討する。	・「HP」「一期一会ニュース」、「風の丘通信」「CoCo てらす掲示板に事業所の QR コードを提示し、風の丘 HP にアクセスできる手段を増やすことを試み、ご家族や地域の方から楽しみにしているとの返信があった。	・CoCo てらすなどを通して、コロナ禍でも地域との交流が絶えず、続けられていると思いました。	・CoCo てらすや居宅等、法人の持つ機能を利用して地域の方の、相談や困りごとに対応し、風の丘の周知も図っていきます。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・風の丘を一つの地域と捉え、法人の廻りにあるネットワークを活用して、生活に楽しみが加わるよう支援していく。 ・在宅生活が維持できるよう、関係各所と連携して、個別支援計画を取り入れたサービス提供に努める。	・休業していた CoCo てらすを秋以降再開したが、コロナの感染状況は収まらず、ネットワークの活用までは至らなかったが、イベントなどで楽しんで頂いた。 ・介護者のいない独居の方は特に配慮し、在宅生活を維持できるようご家族や関係各所と連携し、個別支援を提供した。 （自治会、歯科検診・治療、安心センター活用等） ・地域ケア会議に参加し、メンバーと情報共有を図った	・一人暮らし、高齢者世帯が多くなっていると思いますが、地域でのつながりを事業所としてどの様に関わっていくのかが必要と思います。 ・地域に出向くスタッフが限定してしまいがちな所は今後も検討課題です。 ・法人全体で地域への取り組みを行っていることは、一期一会のとても良いところだと思います。	・地域包括支援センターなどの協力を得て地域でのイベントや会合などの開催情報の収集と参加を進めます。

Ｅ．運営推進会議を活かした取組み	・感染状況を確認しながら会議開催を目指す。 ・会議の開催場所については居住空間を避けた場所を検討する。	・年度初めから CoCo てらすを利用して対面の会議を開催した。 対面会議：４回 書面会議：２回 ・会議を生かした取り組みはできなかったが、委員の皆様には議案書や資料、風の丘通信などで風の丘の運営について公開し、ご質問や意見については参考にさせて頂いた。	・ｺﾛﾅ感染症が２類から５類に変更される事でもあり、運営推進会議委員が風の丘事業所内視察を出来るよう検討する。視察をしないとどのような「ｻｰﾋﾞｽ」が利用者に提供されているのか分からない。分からない中では、外部評価//地域の係わり「ｼｰﾄ」も適切に書けない。また、運営推進会議では、他の社会福祉法人と比べて、いろいろな環境によって左右され書面会議が多かったが、その分、風の丘事業所内でどのような「ｹｱ」が行われているのか把握しにくかった。運営体制の充実を求めます。	・感染対策を取りながら、風の丘本体での運営推進会議開催をめざします。 ・感染状況に応じて、地域の方の見学や参加を求める防災訓練などを行います。
Ｆ．事業所の防災・災害対策	・実際にコロナの陽性が判明して、シミュレーション訓練では見えなかった部分や反省点を生かして、事業継続計画（ＢＣＰ）を作成する。	・事業継続計画（ＢＣＰ）の作成をめざし、研修等に参加したが、計画の作成には至っていない。 ・災害対策や緊急時の対応については、年間３回訓練を実施した。 ・今年度もコロナの陽性者が発生し、２名を施設内で療養介護したが、昨年の発生時の反省を生かして感染を最小限にとどめることができた。	・特になし	・災害対策の訓練は定期的に続けながら、事業継続計画（BCP）については担当を決め書面化していきます。